



和田っ子通信

令和5年度 No. 10
福井市和田小学校だより
発行日 令和6年 2月1日(木)
〒918-8238 福井市和田 1-2-1
TEL:22-8817 FAX:22-6121

袖ひちてむすびし水の凍れるを春立つ今日の風や解くらむ

今年の立春は2月4日です。節分はその前日です。節分には、あちこちで豆まきが行われます。一般的に「福は内、鬼は外」と唱えますが、これは、心の中の邪鬼(邪気:よくない心)を打ち払う願いも込められているそうです。人の心は、常に善と悪の間で揺れ動いています。善は相手を思いやる中で生まれ、悪は自分に固執する中で生まれるものだと思います。常に善が悪に勝るような心のもち方ができるよう育てていきたいと思っています。

さて、今年度も2ヶ月足らずとなりました。本校では、児童・保護者・教職員に対して行った学校評価アンケートをもとに1年間をふり振り返り、次年度への方向性について話し合います。また、「家庭・地域・学校協議会」を開いて、地域の代表の方から本校の取組について意見をいただきます。来年度さらなる発展が遂げられるようと、ふり返っていききたいと思っていますので、今後ともよろしくお願いいたします。

なお、アンケート結果については2月中にお知らせいたします。(文責:勝木)



ある日の出来事から

プログラミングを体験しました ～5年生総合「プログラミング学習」～

5年生は、総合的な学習の時間に、プログラミングの学習を5時間実施します。ねらいは、論理的思考を育むとともに、情報技術が私たちの生活を便利にしていることをプログラミングを通して確認し、情報に関する理解を深めることにあります。

今回は、実際にマイクロビットを用いて、プログラムを入力して、マークを表示させたり、点滅させたりする内容でした。コマンドの入力に戸惑っていましたが、大学生のサポートを受けながら次第に慣れて動かせるようになりました。児童の理解の早さに驚きました。



そろばんを体験しました ～3年生算数「そろばん」～

1月12日、18日の両日、3年生が、算数の時間に講師の先生からそろばんの使い方を習いました。

まず、そろばんの歴史について話を聞いた後、そろばんをつかって数の表し方を習いました。そして、そろばんを使った「たし方・ひき方」を教わりました。はじめは、ごちなく珠を動かしていた児童も操作や計算の仕組みが分かってくると、簡単に計算をしていました。

児童からは「楽しかった」という感想が多く聞かれました。



あこがれをもって、夢を目指して

～大谷翔平選手からの贈り物～

1月15日、福井市から大谷選手からのグローブが届きました。学校では、次の朝礼でお披露目イベントを計画していたのですが、児童の待ちわびる声を聞き、計画を変更して、とにかく見たり触れたりしてもらおうと校長室前に展示しました。

お披露目にあたり、給食時の校内放送で、大谷選手の手紙を読んだ後、大谷選手のとても素敵でかっこいいところを紹介しました。野球の上手さはもちろんですが、小さいころから目標をたててコツコツ努力していることや、誰にでも丁寧にあいさつしたり小さなゴミであっても拾ったり礼儀正しく自然にできることなど、手本にしてもらいたいことを話しました。

その後の昼休み、校長室前は大賑わいでした。今後、全学級にグローブを巡回させた後に学級に貸し出します。



スケートを体験しました ～サボわだ学級 生活单元「冬の遊び」～

1月16日、サポートわだ学級の児童が、スマイルハートハピリンクで、冬のスポーツでもあるスケートを体験しました。昨年度経験している児童もいれば、初めての児童もいます。児童は、まず、指導員の方から、歩き方や滑り方を教わりました。練習を重ねていくうちに、壁につかまっていた児童も終盤にはリンクに立つことができました。また、初め補助具を使っていた児童は、補助具なしでも滑られるようになりました。上達を感じられ、どの児童も満足できたようです。

この日は、他校の児童とも交流することができました。



やりがいをもって働くこと ～6年生 キャリア教育「アントレキッズ」～

1月19日、6年生が、さまざまな職業の話や体験から、働くことの素晴らしさや物づくり・サービス業の面白さについて4つのグループに分かれて学びました。「理学療法士」のグループでは、体の仕組みと効率よい動かし方について、「織物」のグループでは、いろんな国との商売の面白さや生地の違いについて話を聞きました。「建築」のグループでは、家の中にかくれている配管の話を聞いたり、部屋のデザインについて考えたりしました。「美容エステ」のグループでは、仕事を選んだ理由を聞いたり、ハンドマッサージを体験したりしました。どの職業の方も、仕事を通して相手に喜んでもらうことをやりがいにしていると分かりました。その後、それぞれの学級にもどって、学んだことを報告し合いました。



合奏で、音と心を通わせて…… ～4年生音楽 合奏「茶色の小びん」～

1月23日、4年生のいくつかの学級からお誘いがあり、合奏の発表を鑑賞しました。演奏した曲は「茶色の小瓶」、スィング・ジャズのスタンダードナンバーです。演奏するだけでなく、曲に合わせて、パートごとに立ったり回ったり動きをつけながら、児童は、楽しそうに笑顔で演奏していました。

一人一人緊張したようでしたが、うまくできたのは、みんなと音と心をつなげたからであり、みんなの協力のおかげである、と児童に伝えました。



雪でいろいろ工夫して遊びました ～1年生生活科「冬を楽しもう」～

1月26日、1年生が、生活科「冬を楽しもう」の学習として、築山や校庭で雪遊びをしました。築山では、主にそり遊びを、校庭では、雪合戦や大きな雪玉を使ってのとびばこ遊び、雪だるまや滑り台、かまくら作りなど多様な遊びをしていました。朝からの雪も止み、新雪での雪遊びだったので、簡単に雪玉が作れて、児童は楽しい時間を過ごしたようです。



校長室から

非認知能力を育てる意義とは

非認知能力とは、意欲、協調性、粘り強さ、計画性、自制心、創造性、コミュニケーション能力といった、測定できない個人の特性による能力全般を指します。学力（認知能力）と対照的に用いられる言葉です。この能力が高い人は、「何かをやり抜くねばり強さ」「自分の感情をコントロールする力」「計画をたてて実行する力」などがあり、学ぶ土台がしっかりと出来上がっているのです。状況の変化にも対応でき、生き抜く力が強いといわれます。本校がスクールプランで「豊かな心の醸成」をめあてに掲げている理由はここにあります。非認知能力を高める最も大切な条件は、乳幼児期から大人に愛されて無条件に受け入れられるという経験をもつことです。これによって、心の安定につながり、自分の感情をコントロールできることにつながります。そのためには、会話や読み聞かせ、触れ合いを通してスキンシップを大切にするとよいでしょう。

そして、児童期においても身近な大人がしっかりと自分を見てくれているという安心感が心の支えとなります。この時期は、お子さんの話をよく聞き、対話することを大切に、興味があることに、できるだけ挑戦したり、探求できたりする環境作りに心がけていただきたいと思います。

